

# 福岡東在宅療養シンポジウム アンケート集計 (H27年11月14日)

## 1, アンケート回答者の男女別, 年代別内訳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	年代不明	合計
男性	0	2	5	7	5	11	7	6	0	43
女性	1	7	15	19	21	30	21	5	4	123
性別不明	0	0	0	0	1	1	3	0	0	5
合計	1	9	20	26	27	42	31	11	4	171

## 2, このシンポジウムに参加した動機(複数回答)

- 1) 在宅介護に関心があるから **74 人**
- 2) 家族に介護が必要な人がいるから **39 人**
- 3) 将来の介護に備えて **67 人**
- 4) 現在, 在宅介護を検討しているから **3 人**
- 5) 自分の仕事に役立てるため **97 人**
- 6) その他 **30 人**

- ・民生委員の仕事に役立てるため
- ・ケアマネジャーから紹介されて
- ・劇を見たかったから
- ・地域包括ケアに校区で取り組んでいるから
- ・明日はわが身と思って
- ・ボランティアに役立てるため

## 3, 在宅介護の実際について理解できましたか。

- 1) 理解できた **93 人**
- 2) まあ理解できた **56 人**
- 3) あまり理解できなかった **1 人**
- 4) 理解できなかった

## 4, 寸劇はいかがでしたか。感想等があればご自由にお書きください。

- 1) とてもわかりやすかった **103 人**
- 2) わかりやすかった **36 人**
- 3) ややわかりにくかった **1 人**
- 4) わかりにくかった

### 【全体について】

- ・ユーモアたっぷりでも楽しかった。(同内容の回答多数)
- ・スライドとパネル, ナレーションがうまく組み立てられわかりやすい内容だった。
- ・脚本や演技のクオリティが高く, 皆さん名優だった。バイオリンもうまく間を作っていて素晴らしかった。
- ・分かりやすくコミカルで, 心にじんんとくる劇で楽しませてもらった。BGMがとても効果的でした。
- ・訪問薬剤師ができることがわかりました。多職種で取り組みば可能であることがよくわかりました。
- ・たまがよかった。ポチもかわいかった。
- ・ちょっとだけでも家に帰りたいという内容がうまく伝わってきた。”ちょっとだけ”の合言葉が良かった。
- ・劇はすばらしく, 花束贈呈も良かった。
- ・昨年よりも劇の内容がバージョンアップしていて, 在宅での生活を支える要素が折り込まれていて素晴らしかった。役割もわかりやすかった。来年も期待したい。
- ・役者揃いで驚きました。さすがに現場の方々が作られただけあってわかりやすかったです。
- ・地域包括ケアにおける在宅ケアのポイントを, 笑いを交えながらテンポ良く整理されていてわかりやすかった。このような寸劇のキャラバン化をしても良いのでは? 小さなちょっとした積み重ねやきっかけをストーリー化できていると思った。
- ・1回だけではもったいないので, 地域の講座等でも活躍してほしい。

### 【在宅療養への思いや感想, 専門職の関わりや家族への負担について】

- ・医療依存度の高い方でも在宅で過ごせることを自然に伝えていて, 大事なことをあたたかく伝えていたと思った。
- ・大変なはずの在宅介護が, 楽しく明るく感じられとても参考になった。
- ・在宅療養をとりあえずやってみようかなと思えた。在宅で療養できそうな気がしてきた。
- ・いろいろなサポーターの方がいらっしゃるという事, 心強く思いました。

- ・今後、主人か私が病気になっても在宅療養できそうです。
- ・家族に二人重度障がい者がいて、夫は要介護1で毎日大変ですが、何だかそれほどのことでもない様な気持ちが致しました。
- ・親を介護する時の参考になり 不安感が減った。
- ・東区にこんなユニークな在宅介護チームがあるとは思わなかった。一人でも最後まで我が家で暮らしていけることにうれしく思い、元気で長生きしようと思いました。
- ・退院後の生活がよく理解できた。今、在宅を考えている人の気持ちを、あと押しできる内容だったと思う。
- ・これからの日本のあるべき姿が見えたようです。
- ・過不足の無いサービス提供に医療と介護の連携が大切だと思います。家族の思いを汲み取ってくれるケースワーカーやケアマネの支援が家族を安心させてくれる。
- ・本人の意志が重要。日常の家庭のつながり重要。介護士の心が家族として接することが大切だ。
- ・家族の支えが大切だと思うが、自分の心が1番大切、何事もやれるうちは 頑張ることが必要。
- ・本人の自立のために、家族がいる人は協力が大事。
- ・在宅介護の場合 介護を受ける者の「ありがとう」の一言が1番大事。
- ・できる事なら在宅介護を受けながら最後まで頑張れたら最高です。
- ・家族の気持ちも大切ですが、本人がどうしたいのかが1番大切だと改めて感じた。
- ・家に帰ってからも助けがあること。それでも家族の負担はゼロにはならないこと。でも、自分の愛する人が家に帰ったときに「よかった」と笑顔になれば それだけで、あと少し頑張ろうと思えるんだなと思いました。
- ・在宅復帰にむけて、病院から在宅へつなげる支援について とても分かりやすく現実的な面がリアルでした。経済的な部分もあると思いますが 在宅の良さが伝わりました。
- ・多くの方が支えあって地域の方の暮らし、不安を少しでも減らすことができると思います。今は亡き祖父母の老老介護を思い出しました。
- ・家で看護、介護することのプラス面がよくわかった。
- ・やっぱり在宅が、家が一番と思った。家に勝るものはないと思った。
- ・かっこよく老いて、かっこよく死のうと思った。
- ・みんなが少しの優しさを出すことで、患者の気持ちを満たせるということを再認識できました。
- ・家族に介護が必要に迫られていますので色々勉強になりました。感情的にならない様気をつけて接したいと思います。出来るだけケアマネジャーに相談していきたいと思っています。
- ・やっぱり家が1番よか！タイトルにあったように家族の理解があつて 相談員やケアマネジャー、医師、看護師、薬剤師などの協力のもと、本人の意志を考えて在宅介護が良いと思いました。
- ・介護にいたる前、どんな夫婦の間柄だったかは鍵だと思うけど、相手を思いやらなかった人が家族から心地よい介護を望むのはムリ。けれど他人の介護を仕事でやってくれる方々は、いつもベストをベターを考えて行動してくれる。
- ・早く劇のような体制がとれればいいですね！現実はまだなかなか厳しいものです。社会全体に認知されることを願います。
- ・不安ばかりの状況でも、やってみようと言える自信ができました。家族も私もまだその状況にはないが、今後、親の介護を考える時にも思い出せるだろう。このようなチーム医療、介護がどこでも出来る組織をつくりあげる努力をしていきたいと思う。
- ・他区の医療関係者から東区のネットワークはとていいと聞いていましたが、それを感じられる劇でした。

・寸劇は、おもしろおかしく見ることが出来ますが、実際いろんな壁にぶつかり大変なことが多いと思います。今現在、私も母が認知症で小規模多機能居宅介護でお世話になっておりますが、これからどうしようかと本当に迷っております。

・両親とも亡くなっておりますが、最後を家で迎えさせてあげられなかったのが心残りです。(特に父が家に帰りたいと帰りたいと言っていたので。)

・ソーシャルワーカーのことは、以前ケアマネさんに教えてもらったときに知りました。ソーシャルワーカーも忙しくカンファレンスという話合いの場はなかった。電話で看護師さんのやりとりだった。病院によっても違うと思う。しかし在宅で過ごしやすくするためのスケジュール管理をきちんとしていくために、カンファレンスは大事だと思う。

#### 【疑問・質問等】

- ・少しサービスが過剰ではなかったでしょうか？
- ・現実には、夫婦二人又は一人暮らしが多い。一人暮らしの人でもできるのでしょうか？



「母は70歳に近づいていきました。母は、一人で動いていたのが、足が弱く、自分で動けなくなりました。居ることになりました。“家がよか”はよく分かるのですが実際は本当に大変だと思います。24時間体制でサポートできる所があるのは初めて知りよかったです。是非利用させていただきます。

・うちにはストーマを持つ義母がおり、今はまだそんなに手をとってはいないのですが、今後、年齢を重ねていくにつれてのようになっていくのか不安で、今日話を聞きに来ました。経験談を聞きとても参考になりました。医療従事者ではないのでこの様な場に足を向けることは今までありませんでしたが、沢山の方々が関わっている事を知ることができて、改めて母は恵まれた環境にあったと思いました。

### 【その他の感想】

- ・一人暮らしの高齢者の一人です。今はどんどん外へ出て人とふれあい情報収集に努めています。このような機会が自宅の近くで勉強出来ることを願い健康を保つ努力をしています。
- ・がんばりすぎずに“ちょっとだけ”とてもいいと思います。
- ・まだまだ家に帰ることに不安を感じている方が多いと思いました。多くの人がこのシンポジウム(寸劇)をみられるといいと思いました。
- ・人それぞれの生き方や、現実が違う。ベストは何なのか、これからの課題です。
- ・介護する人も介護される人も お互い「おかげ様」の気持ちをもてたら良いと思います。
- ・1人目竹下さんの話がマイクの関係で聞き取りにくかった。介護者の健康(ストレス)について関心があるので、地域での介護者の情報確保及びケアについて考えたい。
- ・70歳代となると、今後に不安だと思ふことあり、現在健康であるにしても心の隅では不安がつきまとう。年齢のせいだからとは思ふが、安心は沸いてこない。最後は人生なるようにしかならないとの結論である。歳取ると言うことは寂しいことですよ。人生あきらめるとは、何と悲しいことか。
- ・『在宅介護』はすばらしい事ですけど、介護を受ける人の“家にいたい”という気持ちと共に、介護をする人の無理のない介護、お医者さん、ケアマネさんヘルパーさん達とのつながりが大事なんだと改めて思いました。
- ・福岡東在宅ケアネットワークの存在を知ることができ、大収穫でした。地域包括ケアの取り組みに、力強い味方が現れたと思います。

### 【次年度に向けて(意見や希望等)】

- ・「在宅介護」の方向性が示されている今日、年度毎にテーマを取り入れ繰り返しその内容を分かりやすく、お示し頂ければと感じています。
- ・介護力が乏しい事例や、経済的問題がある方が在宅療養を希望される場合の、療養支援についてアドバイスや経験談があれば 教えていただきたい。
- ・一人暮らしの高齢者の場合の在宅介護について、もっと知りたい。
- ・医者か看護師さんの体験などを聞きたかった。
- ・様々な段階があると思いますがインフォーマルなサービス利用についてももう少し取り上げていただければいいのではないかと思います。
- ・認知症について、もう少し具体的に知りたい。
- ・もっと介護、介護保険のしくみなど行政にリードをとってもらいたい。そこに協力する人はたくさんいます。
- ・駐車場の満車が困りました。13:20にきましたが もう並んでいましたので帰ろうかと思いました。